

在留外国人や地域の人々との交流を生かした調査学習

—— 地理的分野「日本の人々の生活」の実践 ——

長岡素巳

I. はじめに

「私の住むアメリカのロッキー山脈のふもとにある乾燥地域では、冬にはやはり雪が降りますが日本のように雪おろしをすることはありません。それは、とても寒いので、降る雪がパウダースノーで軽く、屋根は傾いておらずみなフラット（平ら）になっています。」

「日本に来て驚いたことの一つは、日本人はプライバシーをそれほど重要なこととっていないことです。日本は壁が薄いのですが、イギリスでは壁が厚く、部屋のなかはとても静かで、話し声など外には絶対に聞こえません。私の国ではそれほどプライバシーを大切にしているのです。」

これは、松江に在住（職）の4人の外国人を学校に招き、直接聞き取りした話のなかで、生徒が特に印象に残ったといった言葉のうちのいくつかである。「雪の降るところでは、屋根は傾斜しているのが普通だと思っていましたが、平らな屋根があることを知って驚きました。」「壁について、ふだんは考えたこともありませんでしたが、住む人の考えでずいぶん差があるんだなと思いました。」など、驚きの感想を述べている生徒が多かった。

来年度から実施される新学習指導要領の地理的分野では、内容(2)「日本とその諸地域」－「ア世界から見た日本」の中項目が新設され、そのなかで「(イ)日本の人々の生活」について扱うことになっている。この単元の実践については、すでに文部省を通していくつか展開例が紹介されているが、「しかし、人々の生活と一口に言うが、何をどのように取り上げたらよいか、その具体化を考えると意外に難しく⁽¹⁾、今後の教材開発が待たれているところである。

ここでは、それらの展開例を類型化しつつ、本校の社会科で研究を重ねてきた「調査学習をとり入れた追求型の学習」の視点から、「住まい」を題材として試みた構想と結果をもとに、この単元を指導するにあたっての効果的な学習方法や教材について考察し、課題を明らかにしてみたいと思う。また、実践にあたっては、学習指導要領に示してある「海外生活の経験者」としての在留外国人や「住まいの専門家」から直接聞き取りを行ったりなど、生徒が肌で感じとれるような調査活動について考慮したつもりである。上記の外国人の方の話や生徒の感想はその一部であるが、興味・関心や意欲、自ら学ぶ力などを高めるための「交流を生かした調査学習」について考察してみたいと思う。

国際理解が重視されるこの頃、まず日本の生活そのものを国際的視野から理解することは、その初歩になると思われる。その意味でもこの単元のもつ意義は大きい。

II. 新学習指導要領などにみる内容の改善と指導の視点

1. 改善の視点

「(2) 日本とその諸地域」の初めに、新しく「世界から見た日本」の中項目が設定されたのは、今まで世界と日本の学習が相互の関係に乏しく、世界との比較や関連のなかで日本を理解することが不十分であったことによる。したがって、「国際化の進展等の社会の変化に対応する観点から、人々の生活に関する内容を充実⁽²⁾」するとともに、「①日本を、世界を構成する一つの地域として、世界的な視野からとらえる学習の充実を図ること。②偏狭な国土認識に陥らないよう世界と日本を比較し関連づけてとらえる学習の充実を図ること。」⁽³⁾などが配慮されている。

また、この中項目の後半に、小項目「日本の人々の生活」が新設されたのは、次のような点が考慮⁽⁴⁾されている。

- ① いわゆる新しい国際化に対応する観点から、異文化の理解とともに自文化に関連することの理解も深める配慮が大切になったこと。自文化を世界との比較や関連でとらえること。
- ② 日本の諸地域の学習は、実践の場においては産業活動が中心で、人々の生活そのものを対象にした学習はあまり行われておらず、また、たとえ行っても人々の生活に関する学習は国内で比較すると仕事の紹介になったりして意外に難しいのが実情である。しかし、それも世界との比較や関連においてということになれば比較的容易に可能となり、意欲的な取り組みが期待できるようになること。
- ③ 「日本とその諸地域」の導入部分で生活に関する学習を行うことによって、その後の日本の諸地域の学習においても生活に関する指導内容を取り入れ、展開する学習が実施しやすくなる。

①の内容について自分なりに考えてみると、異文化を理解するには、それが形成されてきた風土や歴史的な条件を他の文化と比較して見る視点が必要になってくる。そのためには、それを見る主体のなかに形成されてきた自文化を客観的に見ないことには、その視点も明らかにはならない。つまり、異文化を理解するのに、自国の曖昧な偏見のものさしで測っていたのでは正しい理解は生まれようがなく、自文化を世界的な視野で客観的に見、異文化との両方に共通するものさしを持つことでそれが可能になってくる。そのためにも、この小項目は扱い方一つで、大切な視点を養うことになると思われる。

2. 指導および扱い方の留意点

この項目の内容や扱い方の留意点については、次のように述べられている。⁽⁵⁾

- ① 「世界とその諸地域」の学習、とりわけ「人々の生活と環境」及び「様々な地域」の学習の成果や生徒の既得知識を生かして、世界の人々の生活と比較しながら取り上げること。
- ② 現代世界を構成する一地域としての日本の人々の生活といった世界的な視野から取り上げ、日本各地の人々の生活の地域差には深入りしないこと。
- ③ 地理的分野の学習であることに留意し、わが国の地理的な諸条件と関連づけて地域的特色を明らかにすることができるような事象を中心に取り上げること。
- ④ 具体的な事象を選ぶにあたっては、生徒の身の回りにみられる諸事象から選択することが

望ましい。

- ⑤ 学習指導要領の「内容の取り扱い」に示されているように、この学習にふさわしい人が得られる場合には、海外生活や海外旅行の体験者などに協力を得るなどして、効果的で具体的な学習ができるように工夫すること。その場合、指導のねらいをはっきりさせて依頼すること。このような留意点を整理すると、次のような条件を多く満たす教材が望ましいことになる。

- A 「世界とその諸地域」での複数の地域の学習内容と比較・対照できる事象。(そのようなカリキュラムを組む必要がある。)
- B ある程度、日本各地に共通する事象。
- C 日本の地理的な諸条件が表象されている事象。
- D 生徒の回りにみられる事象。できれば、調査活動が可能な事象。
- E 海外の生活経験者に協力を得られやすく、地理的な諸条件を比較できる事象。

以上のような視点から、今まで発表された展開例を含めて、指導可能な事象について述べてみたいと思う。

Ⅲ. 「日本の人々の生活」で扱う内容の具体例と問題点

A～Eに該当する具体的な生活の事象といえはすぐに「衣食住」が思い浮かぶが、それ以外にも「生活文化」の観点や現行の教科書で取り上げている内容から見てみると、「宗教」をあげることができる。また、すでに発表されている実践例や構想では、他に「言語、行動様式、生活意識、年中行事、童謡・唱歌、昔話」などかなり広い領域がある。これらは、自然との関わりのなかで培われてきた「生活文化」そのものであるが、実際の授業で指導する場合、次のような問題点が必然的にでてくると思われる。

- ① 地理的分野という枠のなかで、どのような視点から教材化し、指導内容に置き換えるか、どんな地理的条件と関わらせるのか明確な視点が必要とされる。
- ② 「生活文化」は個性的で地域性や民族性が強いが、産業革命以来の急激な科学技術の発達によって、生活文化が画一化・普遍化され変容を遂げてきていること。⁽⁶⁾したがって、世界と日本を比較する場合、それらをはっきりと区別する時代的な視点が必要となること。(日本では江戸時代と明治時代がおおむねその境界となるであろう。)
- ③ 「生活文化」の変化をとらえさせることにより、逆に「生活文化」そのものを見る視点がぼやけてしまいかねないこと。つまり、「文明の発達段階」というものさしで「人々の生活」を判断する傾向を助長してしまうことにもなりかねない。生活の変化については、その背景よりも「文明の発達」を受け入れ消化してきた方法や形態の差異に注目させるべきであろう。
- ④ 産物などを中心に学習を進める産業学習のように数量化・グラフ化などは難しく、教材化するのが容易ではない。⁽⁷⁾

これらの問題点をふまえつつ、実践可能と思われる事象をまとめたのが次頁の表である。

「日本の人々の生活」事象一覧と教材化の視点⁽⁸⁾

事象	あつかう内容	A：世界の諸地域	C：地理的条件	生活文化の変化
衣	衣の素材 麻・木綿・生糸 紡ぐ・織る 農家の副業・手機織り・高級織物 染め方 染料・友禅・藍染・ちぢみ 形式と着方 全身衣・和服・更衣・ハレとケ・作業服 その他 下駄・たび・てぬぐい	エスキモーの毛皮 牧畜と羊毛 インドのサリー サイザル麻 洋服 遊牧・農耕民の服装 寛衣と窄衣	気候と素材 農業と素材 伝統産業と技術の発達 風土と色 気候と着方 宗教と着方 労働と服	化学繊維と新素材 素材の輸入依存 機械による大量生産 コンピューターを導入した伝統産業 流行と色 洋服の一般化 和服の晴着化 靴とソックス タオル
食	主食 米・麦・粟 副食 魚（刺身）・漬物 加工技術 味噌・醤油・すし・おむすびと梅干し 習慣 はし・もりつけ・飲茶	東南アジアの米食 パン・肉食と香料 遊牧・農耕民の食 ミレットといも とうもろこしとじゃがいも カレーとヒンズー教 極北遊牧民の食 ハンバーガーとインスタント食品	風土と食物 農業と食物 漁業と食物 気候と保存 宗教とタブー 食品と工業	パン食の普及 米の減反政策 肉食の普及 食糧の輸入依存 食事の洋風化と多様化 コーヒー インスタントと冷凍食品
住	住の素材 木・紙・泥・わら 建築方法 木組み 構造 傾斜屋根・縁側・高床・薄い壁 障子、襖で仕切られた壁や窓 機能 風呂・便所・庭・畳・こたつ・瓦・床の間 習慣 方位・靴を脱ぐ習慣	南欧の石造家屋 エスキモーの氷の家 北欧の木組みの家屋 西アジアの日干レンガ モンゴルのパオ 洞穴の家（ヤオトン） インドネシアの高床 韓国のオンドルと沐浴 欧米のセントラルヒーティングと浅い風呂・芝の庭	風土と素材 風土と建築方法 風土と構造 生活観と構造 風土と機能 歴史と機能 生活観と習慣	コンクリートと鉄筋 石膏とガラス 住宅の洋風化（アメリカ化） 高層住宅 平屋根 洋瓦 壁とドア・テラス ガラスサッシ エアコンと電気こたつ 庭の洋風化

在留外国人や地域の人々との交流を生かした調査学習

事象	あつかう内容	A：世界の諸地域	C：地理的条件	生活文化の変化
宗教	多様な信仰生活と社会 仏教と人生観 神道と地域社会 先祖崇拜と血縁 自然崇拜 キリスト教	キリスト教と社会 イスラム教と戒律 タイの仏教	風土と信仰 宗教と社会	冠婚葬祭の宗教 豊かさ和社会不安 の中での宗教
言語	難解な日本語と日本人の言語生活 日本人の海外生活 日本に住む外国人の生活	欧米の言語感覚 漢字文化 複雑な言語（インド）	風土と言語 言語と社会	造語・流行語 マンガことば
生活意識と行動様式	勤労と余暇 勤勉を尊ぶ価値観 集団と個人 集団での行動を好む 海外での日本人	欧米の勤労観とプライベート ライバシー 各国の意識調査 （総理府実施等）	農業と勤労 宗教と勤労 風土と意識	若者の意識の変化 団塊の世代 余暇の増加 労働の質的变化 マスコミとプライベート
生活習慣	年中行事 お盆・正月・節句・祭など 日常生活 あいさつ・社交辞令	北欧と熱帯地方の行事 韓国の年中行事 アメリカの行事 欧米と東洋のあいさつ	風土と行事 歴史と行事 社会関係とあいさつ	年中行事の商品化 新しい祭 年中行事の多様化 年中行事の復活
童謡	風土や生活感覚を読み込んだ童謡 雨・風・雪の歌と季節感覚 海や地形を盛り込んだ歌 勤労や祭り・年中行事の歌 遊び歌	東アジアの童謡 西欧の民謡・歌	風土と童謡 歴史と童謡	西欧の唱歌の導入 新しい童謡 季節感の欠如
昔話	昔話に見る生活意識 自然との関わり 人や社会との関わり 信仰生活 昔話に見る衣食住	東アジアの民話 西欧の民話・寓話	風土と昔話 歴史と昔話 信仰と昔話 昔話と生産様式 勤労と昔話	新しい民話 都市化と意識のずれ

Ⅳ. 調査学習を取り入れた「住まい」の学習の実際

1. 単元名 「日本人の生活を調べよう（住まいをとおして）」
2. 実施対象 第2学年（平成3年度からの年間指導計画では第1学年の最終単元であつかう）
3. 単元の基盤および研究実践のねらい

ⅡおよびⅢで述べたような、指導の視点・扱い方の留意点・予想される指導上の問題点をふまえながら、実際には、「住まい」を題材として実践を試みた。「住まい」を取り上げたのは、前記のA～Eの条件を満たすと同時に、次のような利点もあるからである。

- ① 地理的な諸条件を端的に表象しており世界の諸地域と比較がしやすいこと。
- ② 素材・建築方法・構造・機能・習慣など多面的にとらえられること。
- ③ そこに住む人々の知恵や生活観、歴史や文化的な側面に触れることができ、生きた教材となること。
- ④ 生徒の生活と直結しているが、住まいそのものについては以外と知識が少ないこと。
- ⑤ 調査対象や方法が豊富であること。
- ⑥ 宗教的な要素などが少なく、調査段階で追求や検証が比較的しやすいこと。

「住まい」の学習をとおしてこのような利点が生かせるような単元の指導過程を組んでいきたい。また、「衣食住や宗教・言語・行動様式……」などを数時間かけて並列的に扱う方法や、これらの項目の中から生徒に1つないし2つ選ばせ追求させる方法もあるが、調査活動を取り入れるということと、今回は「自ら学ぶ力」のなかの「自ら計画を修正していく力」に焦点を当てたため生徒がお互いに比較・修正できるように1つのテーマにしぼって追求させた。⁹⁾

調査方法は、先に述べた在留外国人や家族、住まいの専門家や職人の人たちとの交流をとおして、知識や認識だけでなく、調査の技能や住まいと人間のかかわりをできるかぎり生徒の直接体験からつかみとらせるようにしたい。

以上のような考えから、この単元を実際に指導するにあたっての研究のねらいはつぎの3つにまとめられる。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 在留外国人や地域の人々の目をとおして、あらためて日本の住まいを見つめ直すことにより、世界的な視野や地理的な目で自文化および生活文化を見る視点を養うこと。② 在留外国人や地域の人々との交流をとおして、生徒の興味・関心や意欲を高め、生徒が生き生きと学習する学習方法や教材をめざすこと。③ 調査学習のおもしろさを体験させるなかで、「課題の発見→予想→検証計画→検証→まとめ→発表→よりよい解決のあり方」のそれぞれの学習段階に必要な能力を養うことをめざす。本校社会科部として2年では、「現実的で、論理的な学習計画が立てられる」ことを重点目標にしているため、この単元では特に検証（調査）計画を立てる力の育成をはかること。 |
|---|

4. 単元の目標

研究のねらいに関わる目標はつぎのとおりである。（目標分析は割愛させていただく）

在留外国人や地域の人々との交流を生かした調査学習

- (1) 日本人の住まいの特色を風土的条件からとらえさせ、社会的・歴史的条件などとの関連に気づかせる。
- (2) 在留外国人や地域の人々との交流を生かした調査活動をとおして、主体的に追求する意欲や態度を育てる。
- (3) 調査活動の効果的な計画を立案したり、調査の見通しをもって、計画を修正していく力を養うとともに、目的に応じた調査が実施できる能力を育てる。

5. 指導計画

—— 日本人の生活をさぐる (住まいを通して) 学習計画表 ——

時	テ ー マ	学 習 内 容	課 題
1	単元の学習の前に	○単元のねらい、内容 ○日本の住まいの特色 ○INTRODUKUTION TO JAPAN	○日本の住まいの特色を、外国の人に紹介する文を書く。 ○外国人向けに日本人の生活を紹介した資料を読む
2	日本の住まいの特色を知ろう ①事前調査計画の作成	○疑問の調査 ○ねらい、内容 ○計画の修正 ○準備、心構え	○外国と比較した住まいの特色を予想し、質問の視点・内容をきめる。 ○個人→グループ→学級へと、計画を発表しながら練りあげる。
3 4	日本の住まいの特色を知ろう ②事前調査とまとめ	○一斉調査 講義および質疑応答	○外国人の方への聞き取り調査を実施する。 ○文献調査は個人の課題 ○疑問にそって、各自で調査結果を整理しておく。(プリント提出)
5	住まいの特色を知ろう ③事前調査のまとめ	○外国の住まいと日本の住まいの特色	○調査内容を発表しあい、世界から見た日本の住まいの特色をまとめる。
6	住まいの変化を知ろう	○民家の移り変わり ○新しい洋風住宅	○家族やお年寄りからの聞き取りを各自で事前に行なっておく。 ○班でまとめ、発表する。
7	住まいの背景をさぐる ①課題づくり	○風土、歴史、社会から見た日本と外国の比較	○調査結果をもとに、予想を立てる。 ○課題「日本の住まいの背景にあるものはなんだろう。—特色と風土・社会、変化と歴史・社会—」

8 ・ 9	住まいの背景をさぐろう ②調査計画の作成 ③調査計画の修正	○テーマの決定 ○ねらい、内容、方法 ○準備、心構え ○計画の修正 ○調査先への連絡、打合せ	○何を確かめるために、どこで何をどのように調査するか班で決定し計画を完成して提出する。 (指導を受けて合格する)
10 ・ 11	住まいの背景をさぐろう ④調査の実施	○班別調査	○計画に従って、調査を行う。
課 題	住まいの背景をさぐろう ⑤調査のまとめ	○調査結果のまとめ ○班発表のシナリオ作成 ○発表の役割分担	○疑問にそって、各自で調査報告書を作成する。(提出) ○班で発表できるように、整理し、資料(TP,プリント、VTR等)を作成する。
12 ・ 13	住まいの背景をさぐろう ⑥調査の発表会	○調査内容について ○調査方法について ○自己評価と相互評価	○他班の発表を、プリントに整理する。 ○評価表に採点し、感相を書く。
14	将来の住まいを予想しよう	○自分の将来の住まい ○単元の反省とアンケート	○日本の生活の特色や変化の背景をふまえて、自分の将来の住まいについて予想する作文を書く。 ○アンケートの実施

6. 授業の具体的展開

「住まい」の特色を明らかにしていくために、まず事前調査として日本の住まいと世界の住まいを比較し、その違いや共通点から「なぜこんな違いが生まれてきたのだろう」を課題としてとらえさせ、本調査へと導く流れを組んだ。従って、2回にわたる調査活動を取り入れたが、その概要を述べるなかで研究のねらいにせまりたい。

(1) 住まいの特色を知ろう——事前調査(第2時～第4時)——

事前調査では、日本に在留中の韓国・中国・アメリカ・イギリスの4か国の方から直接お話を聞く会を学校で開くことになった。当初は、松江にすむ外国人の方の家に直接訪問して聞き取りする予定であったが、県庁の文化国際室のご好意で実現の運びとなった。

この調査のねらいはすでに述べたとおりであるが、単なる外国の紹介に終わらないためにも、目的をはっきりさせて講師の依頼をすることがとくに大切であると考えた。そこで、授業では、1時間を調査計画の作成に当て、①住まいの構成と要素、②チャートによる世界の住まいの紹介を行った上で質問内容を各々に考えさせた。さらに個別に考えた質問をグループ内で出させ、質問に対する答えも予想し合わせた。(グループは第1時間目に編成し、単元の終わりまで同

じグループで追求させた。)最後に全体で質問や予想を発表させ、いくつか妥当性のある質問に絞り、それを事前に4人の講師に送っておくことにした。(資料1)個人やグループでどうしても質問したいことは、講師に直接聞くことにした。

当日は1時間半の予定で、前半は事前に送っておいた質問に答えてもらい、後半は全体で個別の質問を受けた。しかし、質問者が多すぎて時間を延長して答えてもらったが、それでも質問ができない程、意欲的な取り組みであった。調査結果については、記録用紙にまとめさせた。(資料2)



以下は、生徒の感想の一部である。

○僕たちは、今まで教科書などでしか外国の住まいなど知ったことがありませんでしたので、昨日の会はとてもよかったです。特に、その国に住んでいる人が直接質問に答えてくれるので、実際にどんな住まいが建ってどんな特徴があるのかよくわかりました。それに4か国とも、気候、習慣、土地などがまったく違うので、話を聞いていると4国どおしの違いや日本との違いがはっきりしました。

○TVなどでよく見るような情報ばかりでなく、生活に密着した今まで知らなかったことが沢山分かってよかった。住まいの違いについて、精神構造の違いにまで発展した問題もあって、本当に外国人の方たちとお話をした意味があったと思った。

○とってもおもしろい、興味しんしんの会でした。また、こんな会に巡り合えたらいいなと思います。それは、私たち生徒が、直接外国人の方に質問し、すぐ答えてもらえるということはほとんどできないことだからです。4つの国、それぞれの人の話を聞いていると、日本という国がどんな国なのか少し分かってきたような気がします。

○本当に楽しいひと時でした。外国の講師の方もこちらの日本語で話していただき、とても聞きやすくメモもすぐにとれました。他に聞きたいことがあったけど、時間がなくて残念です。

(2) 住まいの背景をさぐる—課題づくり(第7時)—

その後の授業で、事前調査で得られた知識から、日本の住まいと比較できる部分を抽出して対比させ、「なぜそのような違いが生まれたのだろう。」を課題として提示し、風土、社会・歴史の各面から予想を立てさせた。また和風の住まいが変化してきた点を調べさせたうえで、その変化してきた原因についても予想を立てさせ調査対象とした。(資料3)日本の伝統的な住まいの特色を中心にまとめ、それについて比較、予想を整理したのが次の表である。〔 〕内は変化

要素	和風の住まいの特色	生徒の考えた予想	抽出した外国の特色
住の素材	木造の家、紙、泥、わらなど 〔鉄筋コンクリート、新建材、モルタル〕	木が豊か、湿気を吸う、紙も木から、身近な物の利用	レンガ（英）石（南欧）日 干しレンガ（中；西北）
建築方法	木を組んだ家 〔コンクリートの家、ツーバイフォー〕	木の量が少なくてすむ、通気性がいい、地震に強い	木を積んだ家（米；北部加）、洞窟の家（中）
住の構成	傾斜した庇の長い屋根と瓦 〔平屋根、銅板、コロニア ル〕	雨・雪が多い、雨を防ぐ	平屋根（米；西部）
	とりはずせる薄い壁（襖など） 〔板壁、石膏ボードなど〕	湿気が多く夏涼しい、家がせまく部屋が広く使える等	厚い壁（英）
	簡単な窓（障子、格子） 〔ガラスサッシ、カーテン〕	通気性がいい、採光と外から見えなくする両方の役	二重窓（米、中、韓）防音と採光用の窓（英）
	庭につづく縁側 〔減少、テラス、バルコニー〕	近所づき合いの場 日光を取り入れる場	
	高い床と畳 〔通風穴、ジュウタン、カーペット〕	通気性がいい、害虫やねずみなどから守る	低い床（英）
	いろいろ使える和室 〔個室、目的別部屋の増加〕	3世代所帯 少ない部屋数	目的別の部屋（米・英）
機能	毎日のように入る風呂	湿気が多い 水・燃料が豊か	早朝の沐浴（韓） 半年に1回（中；北西部）
	和風の庭 〔芝生の庭、洋風化〕	季節感を味わう 縮景を楽しむ傾向	芝と花壇の庭（米・英）
	部分暖房（こたつ、ひばち） 〔全体冷暖房：エアコンなど〕	通気性のいい家 燃料代の節約	全体暖房 {オンドル（韓） セントラルヒーティング （米・英）}

(3) 住まいの背景をさぐる——野外調査（第8時～11時）——

事前調査でえられた日本の住まいの特色とその背景についての予想のもとに、実際に調べる段階である。各班ごとにテーマを設定し住まいの特色から1～3つ関連する事項を選び調査計画を立てた。調査対象は、各グループで考えさせることにしたが、参考として次のような住まいの専門家の職業を紹介した。



- | | | |
|--------|------|--------|
| ○大工 | ○工務店 | ○住宅建設業 |
| ○設計事務所 | ○材木店 | ○建材店 |
| ○瓦屋 | ○建具店 | ○表具店 |
| ○左官業 | ○造園業 | ○内装店 |

生徒は、電話帳で目的とする業種を探し、相手の都合を聞いては何回も公衆電話のダイヤルをまわしていた。

聞き取り調査にあたっては、確かめたい事実に対してどれだけ関連した質問を用意できるかがポイントになるので、1つの事項について必ず複数の質問を用意するように促した。そして、ルートマップと計画のチェックを教師から受けるとともに、訪問先でのマナー等について説明を聞いてから野外調査を2時間の連続授業として実施した。調査結果については、野外調査報告書としてまとめさせた。(資料4)

ここで、野外調査を終えた生徒の感想を紹介しておきたい。

○最初に調査目的を書いたカードを渡すのを忘れていたりして失敗も多かったが、前々から発表方法はVTRとクイズ形式と決めていたので、それにそったインタビューなどの調査ができてよかった。訪問先の相手に対する態度や礼儀も、私の班はなかなかうまくできたと思う。野外調査に行くまではどうなることかと不安だったが、時間どおりに学校に帰れてよかった。

○自分のことばかり考えている人がいて、班長として気分を害した点もあり、班をまとめるのに苦労した。しかし、野外調査自体はとてもまじめに取り組めたと思う。調べたことが発表に役立つそうである。

○計画中に学校付近で数か所あってみたが全部電話で断られてしまった。最後に〇〇住研だけ話が聞けることになり安心した。〇〇住研では、とても親切に丁寧にいろいろなことを教えてくださりとても嬉しかった。

○道に迷ったりしてあわてたが、調査は予定外のことも聞けてかなりよかった。何よりもその職で働く職人さんの誇りと情熱のようなものを感じたし、知識の多さにびっくりした。

○A工務店は近代的なビルで社員の人も多かった。B建設設計は280年も昔に建てられたという木造建築の生き証人だった。大きな梁や土間、千本格子など見るだけで勉強になった。

V. 学習の評価と今後の課題

以上のような実践が、学習の上でどのような効果をもったであろうか。研究のねらいに即して述べてみたい。

1. 研究のねらい①・②

- ① 在留外国人や地域の人々の目をとおして、あらためて日本の住まいを見つめ直すことにより、世界的な視野や地理的な目で自文化および生活文化を見る視点を養うこと。
- ② 在留外国人や地域の人々との交流をとおして、生徒の興味・関心や意欲を高め、生徒が生き生きと学習する学習方法や教材をめざすこと。

事前調査を終えて生徒はこんな感想を述べている。

○世界の国々の住居と自然、人々の考え方、歴史などのかかわりがよくわかった。日本に比べて変だと思っていたこと、いいなあと思っていたことにも、その土地に適した家の作り方だということがわかり、日本の家も日本に適した家の造りだからこんな形なのだろうと感じた。

○テレビや雑誌類が発達しているのに知らないことの方が多かったのが意外だった。今まではどこの国もみんな日本のような家とそう変わらないと思っていたのでたいへん驚いた。

○住居というものは、やはりその国がらとか国の風土をよく表していると思います。住居を知ることにより、その国がわかり、日本がわかる。そんな点でとってもいい機会でした。

○私が他国の人に日本の家について聞かれたら、まともに答えることはできないと思います。もっと、自分の国をよく知るのが大切だと思いました。

○4つの国の人に自分の国の風土・昔からの家・最近の家の様子について聞けるとてもいい機会だった。一つ一つの家を説明してもらおうと、「いいなあ」とか「変わっているなあ」とか思ったけれど、日本と違う点はすべて納得できる理由があった。それなら日本が外国と違う点にもきっと「ふーん、そうかぁ」と思うような理由があるに違いない。外人の方に聞いたそれぞれの家と日本を比較し、違うところはなぜなのか日本側の理由をこれからは調べていきたい。

このような感想は生徒の多くが述べている。外国人の目を借りて、グローバルな立場から見ることで、明らかに「住まい」を見る視点が変化している。風土や歴史、そこに住む人々の考えなどを「住まい」という媒体と重ねてみる眼が開き初めているといえよう。また、この調査によ

て次の段階への学習意欲をかきたてられた生徒がいることもこの感想から読み取ることができ
る。教師が意図しなくても、次の学習の方向性を自分から見だし動きだそうとしていることは、
主体的な学習そのものの兆候であろう。

学習前には「知っていることだからつまらない」という生徒が特に男子にかなりいたが、野外
調査のあとの感想では次のように述べている。

○野外調査をしてためになったし、おもしろかった。僕たちがなにげなく住んでいる家について、
よく知ることができたのでとても嬉しい。自分の家に対する見方が変わったと思う。

○自分の国の家のことなのに知らないことが沢山あって驚いた。

○考えていた以上の内容の濃い調査だった。建築士さんが最後に、「中学生のような若い人が家
に関することに興味をもってくれるのはすごく嬉しい。」とってください、狭い視野でしか考えて
いなかった家のことが本当はすごく大きくて大切なものだと感じた。

○畳の特長が保温性、吸湿性、弾力性の3つであるなんて考えもしなかった。冬でも暖かいし夏は
ひやりとした心地よさがある。季節によって湿度を調節する働きもする。また、座っても痛くない
し、寝るときもちょうどよい堅さである。畳ひとつにも気候や風土に対する知恵があり驚かされた。
洋風の家にも和室があるのは、今も木や畳の安らぎを求めているのだと思う。

○障子は西洋の窓、カーテンの両方の役目を兼ね備えたものなので非常に合理的だと思った。日本
は湿気も多いし、森林も豊かなのでとてもあった作り方だと思う。和紙ももとは木からできている
し、格子などもそうである。祖先が考えだした知恵はすごいと思った。

○畳、木、障子などすべてが呼吸しているとは考えても見なかった。日本は夏暑く湿度も高いので、
湿気をうまくコントロールしている家の造りにはたいへん驚かされた。

○□□設計事務所で「なぜ縁側があるのか」について質問した。答えは①夏直射日光が入らないよ
うにする②冬日光がちょうどよい深さに差し込んでくる③自然と室内との中間の役目④庭を見て自
然との一体感を味わうの4つであった。西洋建築には自然との一体感はあまりなく、どちらかとい
えばシャ断的だ。自然と親しむ心が縁側を産んだとも言えるだろう。私は、縁側のある家には住ん
だことはないが、そのあたたかい人間味のある場所にあこがれを抱いている。だから言いたい。

「Come Back, 縁側！」

事前調査で聞きはじめた眼がはっきりと住まいの奥にあるものをとらえている。しかもそれが、
「もし、先生から資料を与えられてやっていたら、ここまでおもしろく取り組めなかっただろう」と
生徒の感想にあるように、発見の驚きや喜び、調査事実に対する自我関与をとまなう意見などが調査
後の感想の至る所に見られた。従って、調査結果を報告書（資料4）にまとめることを「楽しい。お
もしろい。やる気が出た。」など意欲的に取り組んでいる生徒がかなりいた。

学習の各段階について「興味や意欲をもち取り組もうとしたか。」といえ事後アンケートの設問に
対して、次の4つの段階にとくにプラス傾向が強くみられた。学習開始時と比較してみたい。

	学習の始め	事前調査	野外調査計画	野外調査	野外調査のまとめ	調査人数
++	21人 (13%)	45人 (28%)	39人 (24%)	77人 (47%)	60人 (37%)	163人
+	74人 (45%)	69% (42%)	86% (53%)	58% (36%)	72% (44%)	
-	53人 (33%)	44% (27%)	34% (21%)	23% (14%)	27% (17%)	
--	15人 (9%)	5% (3%)	4% (2%)	5% (3%)	4% (2%)	

しかし、マイナス傾向を示すものも17~30%もある。これは生徒の感想などから概ね次のような原因に分類できる。また、複数の原因が重なった者もいると考えられる。

- (1) 計画段階で調査の視点(疑問など)、予想、具体的な調査方法などに能力的なつまづきを感じたもの。
- (2) 自分やグループで選択した課題が易し過ぎて、調査の前に結果が見えているもの。
- (3) 学習形態が自分に合っていない(全体質問や小集団学習)、不満を感じるもの。(グループ内の協力がうまくいかないなど)
- (4) 一斉的な学習を好み、学習方法(追求学習や調査学習)が自分にあっていないもの。
- (5) 計画がまずく十分な調査が実施できなかったもの。(内容、ルート、調査先、時間配分など)
- (6) 要求が高すぎ、実際の調査では予想していたほどの結果が得られなかったもの。
- (7) 作業的な学習(結果のまとめなど)が苦手なもの。

これらの生徒も、援助システムをとりいれたり、学習形態や方法に変化をつけるなど個に応じた対策を導入するならば、おそらく+傾向に転じるものと思われる。これを具体的にどうするか、今後検討する必要がある。また、学習課題についても検討の余地は十分にあると考えられる。

2. 研究のねらい③

③ 調査学習のおもしろさを体験させるなかで、「課題の発見→予想→検証計画→検証→まとめ→発表→よりよい解決のあり方」のそれぞれの学習段階に必要な能力を養うことをめざす。本校社会科部として2年では、「現実的で、論理的な学習計画が立てられる」ことを重点目標にしているので、この単位では特に検証(調査)計画を立てる力の育成をはかること。

この項目については、事前・事後アンケートの比較に基づいて考えてみたいと思う。「自力で学ぶ力」についての質問項目1~25のうち、調査計画の能力に関する質問は次の5項目である。⁽¹⁰⁾

1. 同じ予想を確かめるために、複数のユニークな方法を考えることができる。
2. 予想を確かめるために、どんな資料や調査が必要かが考えられる。
3. 自分の能力や時間などを考え、実現できるむだのない調査計画を立てる。
4. 必要に応じ、計画をよりよいものに修正・改善していくことができる。
5. 評価した結果を次の計画や学習のしかたに役立てることができる。

以上の項目について学習前と後に同じ調査を実施した結果が次の表である。

	1	2	3	4	5	調査人数
	前→後	前→後	前→後	前→後	前→後	
++	6%→7%	9%→13%	9%→7%	8%→9%	6%→4%	前 162人
+	27″→35″	48″→62″	38″→50″	43″→55″	43″→47″	後 163人
-	55″→56″	36″→23″	44″→38″	41″→33″	45″→46″	
--	12″→2″	7″→2″	9″→5″	8″→3″	7″→3″	

全体的に見ると能力的な向上が見られる項目が多い。とくに、2. と 4. については伸びが目立っている。事前調査や野外調査の計画段階で、質問事項を検討させたり相互に計画を評価させたりすることで、調査内容を考えたり、計画を修正していく力が身についていくものと考えられる。もちろん、このような能力は一朝一夕に育つものではないが、次のような生徒の体験を経て確実に育っていくものと思われる。予想を多角的に考え多様な方法で調べる能力が要求されるからである。

○質問内容が少なく、その場で考えたようなことをおもにたくさん聞きました。もう少し、質問を多くして内容を濃いものにしていれば、もっといいことが聞けたかも知れません。

○最初は3か所ぐらい行き先を予定していたのに、とても遠かったりして、たった1軒しかいけなかったのが残念だった。終えてみると、質問をもっとよく考えておけばよかったと思う。それに、少し本などで調べていったら、もっと詳しく分かったのではないかと思います。

○私達のグループは1か所だけ行きましたが、たくさん大事なことを教えてもらいました。でも、時間が余ったので、もう1軒ぐらい行って同じ質問をしてみれば考え方の違いなども分かったと思います。またこのような計画があれば、今度は2軒ぐらい行った方がよいと思います。

3. 今後の課題について

この単元を指導しながらまた終えてみて、次のような問題点や課題に気がついた。

- (1) 生活や住まいと地理的、歴史的的事象をどこまで関わらせるのか、指導する側がはっきりとした認識をもっておく必要があること。それが曖昧だと、予想や仮設、調査計画なども焦点がぼけてしまい、地理の学習から離れてしまいがちになること。
- (2) 事前調査をした段階で、ある程度日本の風土的条件は見えてきており、課題を解決するための野外調査に向かう意欲を低下させてしまったのではないか。個別に仮設を鍛えるべきである。
- (3) 追求型の教材としてふさわしいかどうか疑問である。かろうじて、何人かの生徒は最後に掲載するような疑問に気づきはじめている。思い切って、「和風か洋風か」というテーマで討論させ、自分なりの選択をせまる学習過程を組んでどうか。
- (4) グループの枠のなかで、個に応じた課題、学習形態などどのように配慮していくか。

このような課題をふまえ、今後もさらに実践を重ねていきたい。

○住まいの背景を調べるうちに、今は便利さを追求し土地の広さに合わせた感じで、気候に合わせる家が少ないことが不思議だった。

○外国は、それぞれの国の特長に合わせて建てているのに、日本はどンドン他の国の真似で建てる人が増えている。それを知り恥ずかしくなった。

○日本は欧米から沢山の文化を学び、その中にはもちろん住まいも含まれている。和風はもう古くさいという雰囲気でも洋風がパーッと増えだした。だが、今日本の風土や住まいについて見なおす動きもある。もし、将来洋風の家に住んでも、絶対和室も同じ数ほど残しておきたい。

○和風の家はお金もかかるし手入れもたいへん。将来の主婦として洋風が一番だと思う。

○和風住宅は建てるのに時間もかかるうえ気もつかう。洋風は地震に対しても強い。たしかに長持ちしてほしいかもしれないが、今は家を何代にもわたって残す時代ではないと思う。

- (1) 澁澤文隆「社会科地理のキーワード4 世界から見た国土と生活の学習」同編、明治図書 1990
- (2) 〃 「改訂 中学校学習指導要領の展開」柿沼利昭他編、明治図書 1989
- (3) 〃 「社会科地理のキーワード4 世界から見た国土と生活の学習」同編、明治図書 1990
- (4) 同 上
- (5) 同 上
- (6) 星村平和「社会科課題学習の新展開—人間と生活—」平田嘉三他編、三晃書房 1987
- (7) 関谷雅臣「'89中学校学習指導要領 社会科の解説と実践」熱海則夫監修 1989
- (8) 前掲書4冊
別技篤彦「国際理解シリーズ ① 世界の風土と民族文化、② 世界の生活文化」帝国書院 1989、1990
錦織 馨「中学校新社会科、何をどうするか—地理的分野を中心に」第9回島根社会科懇話会研究大会発表資料 1990
金山宣夫「比較生活文化事典④・⑤」大修館書店 1983
- (9) 錦織 馨、岩田 靖他「自ら計画を修正していく力が育つ調査学習の展開」第33回島大附中研究発表会要項 1990
- (10) 錦織 馨「社会科 自ら学ぶ力に関するアンケート」第33回島大附中研究発表会資料1990

資料1

住まいについての質問事項 在松外国人の方々に

私達は、日本の住まいについて、外国の住まいや風土・社会とくらべて、どんな特色があるかを調べようと思っています。つまり、世界から見た日本について知りたいのです。そこで次の点をふまえて質問に答えてくださるようお願いいたします。

- 調査項目
- (1) 外国の住まいと日本の住まいの違いや共通点
 - (2) 外国の住まいと風土（自然条件など）との関係
 - (3) 外国の住まいと社会（経済、文化、習慣など）との関係
 - (4) 外国の住まいの習慣と日本の習慣との違いや共通点
 - (5) 外国の住まいの習慣と風土や社会との関係
 - (7) 日本の住まいについての感想

なお、住まいもいろいろあるでしょうが、次のような住まいを考えてください。

- (1) 松江のような地方都市とくらべてください。
- (2) 中流（ミドル・クラス）の住まいとくらべてください。

では質問に入ります。はじめに、全員の方におたずねします。

◎ 次の点について、いくつか選んで、簡単にそちらの国の特色を教えてください。日本とちがう点があればそれも教えてください。

- (1) 家のつくりについて
 - ・屋根のかたちなど
 - ・かべ
 - ・窓の大きさやつくりなど
 - ・天井や床の高さ
 - ・部屋の広さや仕切りかた
 - ・何階だての家が多いか
 - ・玄関はありますか
- (2) 建設材料について
 - ・どんな材料を用いて家を作っていますか。（かべや屋根、床、天井など）それは、どんな利点がありますか。
- (3) 家の中や外の用具について
 - ・暖房や冷房の方法は
 - ・車はどこにとめますか
 - ・家のまわりにあるもので日本とちがうところを5個出してください。
 - ・庭にあるものや広さ
- (4) 家での習慣について
 - ・日本とちがう点

・靴をはいたまま家に入りますか。家のなかはよごれないのですか。トイレの中も靴のままですか。

・晴れた日に、日本では布団をほす習慣がありますが、それに似た習慣がありますか。

(5) 家 と 土 地

・家や土地の広さはどうですか。

・家のねだん

・地方都市の土地の値段はどうですか。(松江では10万~40万ぐらい)

(6) 日本の住まいの感想

・日本の家をどう思いますか。 ・日本の電化製品について

・日本の風呂や入り方をどう思いますか。

・ヨーロッパから“うさぎ小屋日本”といわれていますが、そのことについてどう思いますか。

(7) そ の 他

・そちらの国で、人気のある住まいの場所は、どんなところですか。そこからの交通機関は何を利用しますか。(外出の時)

・どんな家にあこがれますか。人気のある家は、どんな家ですか。

次に、それぞれの方へ質問します。むずかしい質問は、答えて下さらなくて結構です。

マーク・ダンさんへの質問事項

- 土地の広さは日本とくらべてどうですか。
- お客をむかえる場所はどこですか。
- 日本のように人口の多さが家の大きさなどに影響をあたえていますか。
- アパートと一戸建の数はどちらが多いですか。都会と地方で差はありますか。
- アラスカのエスキモーの家にはお風呂があるか。暖房の方法は。

デービット・ベネットさんへの質問事項

- 家の高さは、何階だてくらいですか。階ごとに使い道はちがいますか。
- アパートに住んでいる人と、一戸建に住んでいる人とどちらが多いですか。
- イギリスには、自然がいっぱいあると思いますが、庭の広さは、日本とくらべてどうですか。
- なぜ、レンガなどをつかうのですか。
- 家の密閉性は、日本とくらべてどうですか。
- 家のまわりには、並木などありますか。

崔 明美さんへの質問事項

- 日本の家のなかと韓国の家のなかではどんな点がちがいますか。
- 瓦を使うのは、日本と何か関係がありますか。
- 台所の広さは、日本とくらべてどうですか。

在留外国人や地域の人々との交流を生かした調査学習

- 交通の方法は、おもに何を使いますか。
- お風呂の入り方は、日本とちがいがありますか。

周 京勇さんへの質問事項

- 普通の家の子部屋数はどのくらいですか。
- 1つの家にだいたい何人くらいの方が住んでいますか。
- 人口の多さが、家に何か影響をあたえていますか。
- 玄関でのあいさつ（人を呼ぶとき）は、なんといいますか。
（日本では、「こんにちは、ごめんください。」など）
- 部屋の数ほどのくらいですか。

資料2

社会科・調査記録用紙 2年(3)組(〇〇)番 氏名〇〇田〇夫

班

No.2

テーマ		日本人の生活を調べよう！——住まいをとおして——	
調査対象 (人名・文献名等)	・疑問に思うこと ・聞きたいこと ・聞かされたこと	CH 〇〇△△	・聞きとりや調査でわかったこと (事実) ・事実をもとに考えたこと・感じたこと
ト ン ジ ン コ ン ハ ナ リ カ ン	・玄関はあるか ・アパート・家の数 ・アラスカ・エスキモーに いそ(風呂、暖房) ・土地の広さ(日本と比 べると) ・屋根の形 ・家の材料 ・床の材質 ・一戸建ての値段 ・別荘はあるか ・アパートの値段	○ ○ △ ● ○ ○ ● △ △ △	・あち ・都会、NYはビルが多い ・風呂は? 暖房は昔はろうそくで下。今は暖房と同じような感じ ・人口は約2倍で面積は4倍 ・平らな屋根 ・東海岸側→レンガ 西海岸側→木材 大千コーわん工場の ・木で下レンガ 床の材質はレンガに似たものがある ・広くは1300 ・300万円以内 ・お金持ちは、200万 ・広くは5万円以内
チ ベ ッ ト ハ ン タ ン ハ ナ リ カ ン	・人口はどのくらいか ・気候はどうか ・地下室はあるか ・スエーデンはあるか ・家はどんなものか (何階建てか、入居料は?) ・アパートの値段は	● ○ ○ ○ △ △	・日本より ・日本より寒い(冬) 日本より暑い(夏) ・古い家にはあるけど、新しい家にはない ・あるけど、使わないで止めたもの ・下は2階建て(中央暖房の場合) 7階は2部屋、2階は1部屋 ある。1階→リビング、ダイニング 台所 But 最近ではリビングダイ ニングとリビングに2つを1つにする傾向も 花下んがある。床は1300、かまど材料はレンガがある かまど厚い。中は静か。自分の家は自分の 一番小さい5万円以内
崔 明 美	・どのくらいか ・床は? ・お風呂は? ・アパートは? ・お風呂は? ・地下室は?	○ ○ ○ △ △	・韓国は寒い。床下はドレンと排水管あり。その上にフローリングを ひく。お風呂は1つ意識して作る。お風呂は少ない。雨は 多いが、多分それら(お風呂)は少ない(雨は少ない) ・キムチをつくる。しょうゆのみそも作る ・毎日お風呂。朝は。But 都会では毎日入る ・2DK→5DK→日本より狭い。都会ではアパートでマンションが 多い。田舎は少ない。(都会は人口密度が高くなる) ・ないと思う。
周 京 勇	・家にはどのくらいか? ・気候は? ・お風呂は? ・家の材料は? ・アパートの値段は? ・アパートの人口風俗は? ・玄関の方向は?	○ ● ● △ △ △ △	・各地でちがう ・北京(冬)は5℃と寒い(夏)は暑い ・北→厚く2重にする。But 夏は1枚にする ・東北・寒い地方→レンガ 2層ロード→木とレンガ(雨に強い) 雨が少ないから必要はない ・300円～500円以内 →安い ・北西部 遊牧民 半年は1回、モンゴル→週は1回 or 2回 ・手まりはほとんど思いつく。南にある

資料 3

①	① 戸建 (L2.5(100)) 7m ² × 12m ² 1:70+	中国
②	② 二軒 (L1.5(100)) 7m ² × 12m ² 1:70+	中国
③	③ 4Lk 5LDK - 100m ² 1:70+	中国
④	④ 高=階 - 築年= 中国南部	中国
⑤	⑤ 男子別荘 (高) 四合院 100m ² 1:70+	中国
⑥	⑥ 7F - 1棟 月 300~400m ² 中国	中国
⑦	⑦ 10F 高層ビル (高) 100m ² 1:70+	中国
⑧	⑧ 高層ビル (高) 100m ² 1:70+	中国
⑨	⑨ 高層ビル (高) 100m ² 1:70+	中国
⑩	⑩ 高層ビル (高) 100m ² 1:70+	中国

CH: ① 住居の歴史 (歴史) ② 住居の歴史 (歴史) ③ 住居の歴史 (歴史) ④ 住居の歴史 (歴史) ⑤ 住居の歴史 (歴史) ⑥ 住居の歴史 (歴史) ⑦ 住居の歴史 (歴史) ⑧ 住居の歴史 (歴史) ⑨ 住居の歴史 (歴史) ⑩ 住居の歴史 (歴史)

CH: ① 住居の歴史 (歴史) ② 住居の歴史 (歴史) ③ 住居の歴史 (歴史) ④ 住居の歴史 (歴史) ⑤ 住居の歴史 (歴史) ⑥ 住居の歴史 (歴史) ⑦ 住居の歴史 (歴史) ⑧ 住居の歴史 (歴史) ⑨ 住居の歴史 (歴史) ⑩ 住居の歴史 (歴史)

関連対比 → 変化 → の交印で結んでください
2年(2)組(4)番氏名 ○ ○ ○ ○ 2班 No.4

現代の日本の住まい (要: 10)

- ① 戸建 (L2.5(100)) 7m² × 12m² 1:70+
- ② 二軒 (L1.5(100)) 7m² × 12m² 1:70+
- ③ 4Lk 5LDK - 100m² 1:70+
- ④ 高=階 - 築年= 中国南部
- ⑤ 男子別荘 (高) 四合院 100m² 1:70+
- ⑥ 7F - 1棟 月 300~400m² 中国
- ⑦ 10F 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑧ 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑨ 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑩ 高層ビル (高) 100m² 1:70+

和風の住居の特色 (要: 10)

- ① 戸建 (L2.5(100)) 7m² × 12m² 1:70+
- ② 二軒 (L1.5(100)) 7m² × 12m² 1:70+
- ③ 4Lk 5LDK - 100m² 1:70+
- ④ 高=階 - 築年= 中国南部
- ⑤ 男子別荘 (高) 四合院 100m² 1:70+
- ⑥ 7F - 1棟 月 300~400m² 中国
- ⑦ 10F 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑧ 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑨ 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑩ 高層ビル (高) 100m² 1:70+

調査表 — 事前調査のための課題(予想)づくり

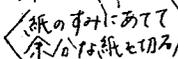
- ① 戸建 (L2.5(100)) 7m² × 12m² 1:70+
- ② 二軒 (L1.5(100)) 7m² × 12m² 1:70+
- ③ 4Lk 5LDK - 100m² 1:70+
- ④ 高=階 - 築年= 中国南部
- ⑤ 男子別荘 (高) 四合院 100m² 1:70+
- ⑥ 7F - 1棟 月 300~400m² 中国
- ⑦ 10F 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑧ 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑨ 高層ビル (高) 100m² 1:70+
- ⑩ 高層ビル (高) 100m² 1:70+

資料4

社会科・野外調査報告書

2年 2組 30番 氏名 ○塚○里

6班

テーマ	日本独特のすまいはいろいろあるがそれぞれの持つ意味は何だろうか？	
疑問	日本の窓にはなぜ格子や障子があるのか？	床の置毛(くのは)なぜ？
調査先	観察・調査でわかったこと(事実)	事実をもとに考えたこと・感じたこと
碧雲堂 松江市 殿町	<p>・格子や障子の良い点 — 日本独特の文化</p> <p>・障子のある意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーテンのような役割 ・適当に光がはいる ・木のめたにのみ <p>↓</p> <p>和紙も使うのは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光が入る ・温気を吸い取る ・むしあつかない <p>・障子を作る時の道具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とぶす  ・和紙  ・紙のすみにあてて余分な紙を切る  ・のりの入れもの  ・強い竹製  <p>〈いふふなから和紙〉</p>	<p>障子は西洋の窓、カーテンの両方を兼ねたものなので非常に合理的だと思った。日本は温気も多い。森林が豊富なのですまい作りかたと思う。和紙もとは木からできる(格子なども木からできる)。祖先が考えた(た)知恵はすまいに代った。</p> <p>西洋の建物は、ブラインドをやるこゝが重視されているから窓などを使っているが、日本は部屋数が少ないのであつた。なににしておいてもあかしくはない。引つくり式の障子もあつたが使われているのさうかと思う。</p> <p>これから西洋化がどんどん進んでも日本人の心はいつまでも木のすまいを求めていくであろう。</p>
伊予置店 松江市 比津町	<p>生た仕事 — 新いたたみづくり</p> <p>表のえ(たたみの表(注)の部分)かえ</p> <p>置の歴史 — こま → おきたたみ → 今のたたみ</p> <p>↓</p> <p>農家の残り物から 金持ちだけ</p> <p>置の良い点 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保温性 ・吸湿性 ・弾力性 <p>材料 — わら、いくさ、ボード</p> <p>なぜ、この材料を使うのか — ソフトな感触 柔らかさ</p> <p>・工程</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ボードをく。(ポリエチレン系 厚さ3cm) ② やわらかい紙をく。(バニヤ 厚さ1~0.5cm) ③ 表面のワラをぬぐ(手の機械) ④ 外側のワラをぬぐ(機械) ⑤ 倉庫又は消費者の所へ(フォークリフト) 	<p>昔は表にたみ以外、ほとんどが材料が違つて、今はほとんどかわってない。これは日本人の、ちばんつづけるのは置でわかっているかたに思う。たいてい置のはじまりは表たのこで、農家が稲作に使っていたわらの残り、冬(のま)に作たのが始まりで、厚さのあるたみは江戸時代には金持ちや家か(か)使っていたが、江戸末期のころから一般の人に使つた。今でもなお使われている。やはり、日本の気候を考えるとたみは保温性、吸湿性がとてもよく、それに弾力性もあり、座たり、寝たりするのに気持がよい。今でも洋館の中にも和室がたたみがあるのは、たみの柔らかさを求めているかたに思う。</p>
野外調査の反省	<p>みんなそれぞれ自分の役目を果たせてよかった。調査先の方への言葉使いもよかつたと思う。はじめから考えていた質問がすぐ終わってしまった。その場ですぐ他の質問も考えたりもできた。伊予置店は東奥谷町だと思つて行つたら、そこは社長さんの家で、工場は比津町にあったので、そのおかげで帰校する時間がだいぶおくれたので、もう少し場所をきちんと調べておくべきだった。</p>	